

振り返りのまとめ

宮城県社会福祉士会認定社会福祉士会講習
宮城福祉オンブズネット「エール」

合同研修会

令和元年9月7日～8日
アクティブリゾーツ宮城蔵王にて

☆振り返りシートは48人より提出

	職	種	※重複回答あり
社会福祉士	31	介護支援専門員	23
精神保健福祉士	0	看護師	2
介護福祉士	15	その他(通所リハ相談員・弁護士・行政・事務員)	4

合同研修をとおして、思ったこと感じたこと

『その人の権利と意思決定（自己決定）支援』～人として、利用者として、ソーシャルワーカーとして～
どのように感じましたか？

- ・ケアマネとして3年がすぎ、仕事も軌道にのりはじめているが、常に聴いて仕事をしているようには気をつけています。本当にこれでいいのか？何か他に方法はないのか考えて続けていきたいと感じました。
- ・初めて参加させていただき、良い意味で思っていたものとは違う形の研修会でした。内容についても、業務の中で大切にしなければならない自分自身の「価値」というものの再確認ができたかなと思います。自身の点検にもつながり色々な気づきを促され次年度以降も参加させていただきたいと思います。
- ・その人をよく理解する個別化や受容にチームとして地域として様々な人を巻き込みながらでも、よく理解していけば決して押しつけにならず、怖いという気持ちも持たず、受け入れて関わるのではないかと感じました。実例、現場がよく伝わりわかりやすい2日間であったと思います。
- ・権利を主張できない人もいます。（権利を主張しないのではなく）その方々のあたりまえにある権利、あたりまえの生活を守るのが権利擁護。あたりまえができなくなり支援を求め、しかし逆により不自由になる現実に、今自分は何ができるのか。今後、自分は何をしていけばいいのか。また、これからの業務で大切にしなければいけないこと、心がけていかなければいけないこと。大事なことを見つめなおす、良い機会となりました。
- ・普通、当たり前前ということへの感覚や意識を持ち続けていくということ、支援の場面や、支援を受けている人の生活に対しどうなのか？という疑いを持って、関わっていく事が重要であると感じた。どこかで障害があったり、判断力がおとろえてきている利用者さんの思いや意見よりも、支援者の考えや思いを優先させ、そのことが正しいと思いこんでいる自分もいる。その人の言葉だけではなく、出来事や状況環境などから、思いについて深く見ていくこと、十分に話し合いながらその意味を確認していくことが重要であると強く感じた。
- ・本人ときちんと向き合うこと、本人がどう思っているか、どう感じているかをしっかり確認することがいかに当たり前で大切かということを学びました。また、決めつけて対応することは危険で常に“これでいいのか？”と自分に問い続けることが支援者としての専門職として大切であるということも学びました。

- ・考え方や価値感…人はそれぞれ多様であるはずなのに、何かしらのきっかけにより不都合とされれば差別や排除の対象となる。専門職という型にハマって視界がとても狭くなっている自分にハッとしました。日常のさ細なことでもどこか病気や障がいどうこうを前提としたものの見方で、その人との対話も不十分なことが多く意思決定といっても“自分の意思を知らず知らず入れ込んでいる”ような気がする。
- ・決めるのは私達ではなく本人であること。しかし私達は本人のため良かれと思い、コントロールしてしまったり、やさしそうに支配してしまうことがある。自分はまだまだ足りていないので、学び、振り返る機会を持つことは、とても大切だと思いました。又、個人として認められるというところでも、1人ひとり違う価値感を持っていると思ってはいましたが、今回の研修を受けてまだまだ解かっていないと気づきました。
- ・「当たり前前」の権利」さえも、普段仕事をする中ではあいまいになり、医療、介護の常識の中でみている。常に「当たり前前」の権利」は何か、自分たちの支援は権利を侵害していないか、ふり返ることが必要と感じた。また、オープンダイアログを通じて、話し合うことの重要性、支援における成果やその人を理解することについて理解を深めることができた。
- ・支援の必要な方と向き合うにあたって、その人自身がどのように考え、どのような性格でどのような経験をしてきた方なのか等一人ひとりその人個人として向き合う必要があることがわかった。
- ・本人と向き合うことや家族と関わること、地域をまきこむことが大事だと思いました。そのために、知識を増やしていくこと、実践をくり返していくことが欠かせないと感じました。
- ・「あたりまえ」が自分の「あたりまえ」になってないか、学んだからといってわかる（完全に）ものではなくこのような学びの機会を持ちつづけることが好ましいのだと感じた。意思決定においていつの間にか本人主体でなくなっていた場面があったと振り返り、気づかされ、普段の業務に従事しながら修正するのは困難と思えた。一度立ち止まるという俯瞰的な見方をする時間が必要だと感じた。
- ・偏見、固定観念で人を見るというのは小さなものも含めると、気づかずに存在する。テクニックでは尽くされない部分と思う。
- ・これからも学んでいかなければいけないことがたくさんあると思いました。
- ・昨年より身を入れて学ぶことができたかなと思いました。講師の方々の語りかけるお話の仕方が上手で引き込まれました。
- ・その人を分かって意識し、支援していたつもりでも「知らず知らず…」振り返りができ、改めて意識しようと思いました。
- ・多くの学びがありました。「自分自身のことをきちんと観察することができない人は、自分以外の人を観察することは難しい。」
- ・自分の中ではフラットな関係で、利用者様にも、職場でも接し対話していたつもりでしたが、昨日の「知らず知らずにいしのみき」の振りかえりで、日々の業務の中で口にしていない言葉、聞いている言葉、やり取りが沢山ありました。契約を交わして、当たり前前の支援も出来ていない。「権利侵害」の言葉が響きました。
- ・悩まなくなった時こそ独善的になりやすい危険サインであるという事に気づき、本人その人を個人として捉え、いろいろ決めたりできる能力があるはずだという考えに立っていきたいと思いました。
- ・フラットな関係性をいかに意識するか、その意識によって本来の想いを表現でき自己決定ができる（支援が具体化）ことを学びました。自分が専門職だからこそ、自分の価値観（正義と善意）に常に疑いを持っていきたいと感じます。
- ・講話の中で“人の善意・正義を疑え”という言葉が一番印象に残っています。“支援する”という行為の中で支援者の善意が、利用者の意思や権利をうばってしまう、支配してしまうことが恐ろしいと感じました。また自分の中にもそのような独善的な考えがあることを反省しました。対等な関係を築くには、

- 支援者側の意識と利用者の権利意識をそれぞれ育てていくことが必要なのではないかと思いました。
- ・「私たちのことを私たち抜きに決めないで」という文言がとても印象に残りました。本人の意向にそって考えるのは当たり前だと思っていながらも、本人だけでなく家族の意向が中心になったり、支援者達の考えで説得する場面もあったように思い、日頃の関りを振り返りながら反省をしながら講義を受けていました。
 - ・今回、日々日常で疑問や納得のいかない気持ちが大きく学びたい、と思い参加しました。今回の研修の中にすべて入っていました。
 - ・他者の意思や意向に対して、良い悪いの判断をするのではなく、その背景にあるものや状況などにも焦点をあて、支援をすることが重要であると感じた。文化の当たり前ではなく、“その人”のあたりまえ、“その人らしさ”を考えて本人が生活を充実して過ごせるような支援が必要だと感じた。
 - ・あたりまえ、ふつうとは何か、善意という名目で利用者を誘導したり、押しつけたりしていないか、自己反省と共に振り返りの機会となりました。
 - ・利用者への関わり方を見直さなければいけないと感じました。その方の生活を支えるにはどうすれば良いか、意思を尊重しながら考えていきたいと思えます。
 - ・本人の意見や言葉を聞こうとしていても、本人の意思についてやっぱり確認できていないことが多かったと感じた。現在の職場が長くなってきているので慣れてきており、対応できるようになってきていると感じていたつもりだったが、あらためてふりかえると、本人以外の家族や支援者の声が大きくて、問題が見えにくくなってしまいうこともあり、もっと冷静に対応できるようにならないといけないと思った。
 - ・日常的な関わるケースをイメージして聞くことができました。業務の中では、利用者の権利を意識して関わることができていなかった反省もふまえ、意思決定支援についても勉強する機会となった。支援者として本人の権利をもとにした意思決定支援が行えるように研修を活かしていきたいと感じました。
 - ・ご本人と対話を重ねることの重要性、又、環境作に関しては支援者だけで考えるのではなく、ご本人と一緒に環境を整えていくことが大切だということ再度感じることができた。
 - ・“「本人は決められる」ということを前提に考えていく”という言葉が印象に残りました。また、意思決定にはプロセスがあり、その意思がどこからきたのかをちゃんと理解することが大切なのだとわかりました。どうしてそれをやりたいのか、真意はどこにあるのかを理解できるように向き合っていきたいです。
 - ・権利と意思決定を意識して支援しようと努力はしていると思っています。しかし現状不十分でもあり、毎回これで良かったのか、本人は私にどこまで本音を話してくれているのか、自分以外のケアマネなら、もっと利用者に沿った支援をするのではないかと、とのかっとうの日々で、苦しいというのが本音です。それでも自分が自分を振り返り、進んでいくこと、多職種とかかわっていくことで少しでもその人の権利と意思決定を尊重していけるようにしていこうと感じています。
 - ・「その人抜きでその人の事を決めないで」できているようではなかなかできていない現実を感じた。
 - ・弁護士の方のお話は、難しい反面すごく勉強になる事が多く、まだまだ自分の勉強不足だなと思った。
 - ・2日目の研修は、すなおに理解しやすく、話を聴きながらも自分に何ができるか等考える事もできた。
 - ・「無意識の中で行っている権利侵害」「よかれと思って…」「自分の価値観で支配する」こと、常に頭で考えて振り返りながら支援の場に行かなくてはいけないなあと感じた。あたり前に行っていることが本当に自分の思いなのか、本人はもちろん支援者間で話し合う場をきちんと持てるようにしていきたい。
 - ・「あたりまえ」ということの大切さ。利用者のいないところでその人のことを決めない。利用者とのフラットな関係性を保つ。スタッフ間の関係性の重要さ。自分を振り返り確認すること。生活の全体を見

渡す。文脈をさぐる。これらのことを、自分にもう一度確認したい。

- ・ひとりひとりちがうのだと言うこと、自分の思いや考えを押し付けたりすることのないようにしなくてはいけないと強く感じた。その人利用者、本人がいないところで話をするのはナンセンスであり、自分たちがよかれと思って道筋を勝手に作ってしまうおそろしさを改めて感じました。個別性や尊重することを心がけていくことや話し合うという場面ではその人にかかわる人をまきこみ、みんなで支えていけるようにしていきたいと感じた。人生答えはないが、話し合うことの大切さ勉強になりました。
- ・権利擁護と意思決定支援はとても難しい。自分のスキーマと対立する利用者の方への支援の場合、どれだけキチンと支援できたのか、今更ですが不安を感じた。正解はないのかもしれないがあの時もっと悩む必要があったのかもしれない…そんな事を感じました。
- ・あたりまえがその人にとってあたりまえであるように意識していきたいと思いました。知らず知らずに権利侵害をしてしまっている現場の現実、本来こうあるべきという講座を今後もやっていきたいと思えます。対象者と話すこと、その人の背景を理解したうえで対応できるようにしていきたい、それを職場でも共有したいと思えます。
- ・その方にとっての“普通”や“あたりまえ”が何なのか、丁寧に関わり対話することの大切さを感じました。日々の業務、スピード感との間のジレンマに向き合うことになりそうです。
- ・話しあう前の関係性作り、文脈への着目し対話を重ねることで本人が自分自身への気づきや自覚につながり、行動変化につながっている。認めることも相反する事両方を認めあう大切さも感じる。自身の職場理念へも照らし合わせや重ね合わせる部分も多く、説明にもつながると思えます。
- ・何度聞いてもまだ自分の中で理解しているだけで実践に移せていないことを改めて感じた。自分がされて嫌なことがあるように、今日の前にいる人（利用者、家族、スタッフ…）が自分のことは自分で。一人の決められる人として受け止められていると感じてもらえるような、その人のあたりまえを知って、まずは自分の人との関わり方を省察しながら行動にできたらと思いました。
- ・最近ソーシャルワーカーとして「慣れ」があり、自分は正しいと思っていた行動、言葉も自分でも客観的に振り返らなければならないし、同じ職場の人間にも意見を聴いて、よりよい支援を考えていければと感じました。
- ・利用者に関わっていく際に、本人をどう見ていくか。今まで「普通」の人、人として当たり前のができているのか、ということを考えて関わっていたか、改めて考えさせられるきっかけとなりました。本人の意思決定支援のためには、正しい道は無いと思えますが、それに向かうプロセスを大事に自分の技術の成長や、スタッフ同士のコミュニケーションも、この研修を活かして今後取り組んでいきたいと思えます。
- ・夜からの参加だったため講義を受けることができなかった。
- ・本人よりも支援者の立場が上になってしまっているが、自分自身から変わって、本人主体で支援していくことで、少しずつ変わっていけるといい。
- ・通常の業務ではケアマネとの連携が主で、あとは時間との闘いになっているところがあるため、サービス開始前の時点で「本人も納得している」「本人も希望している」のが前提として話をすすめていたが、「必ずしもそうではないかもしれない」と思い返すきっかけになり、まれなケースだが、利用者様から「通いたいけどどうしたらいい？」というケースとくらべてみるきっかけにもなった。意思決定の大切さを自覚できた。
- ・当たり前であること、普通でいることを実現するため、誰もが権利がある。一人ひとりによって価値観は異なりそれぞれこだわりがある中で、利用者が普通に生活を送ることができるよう、この研修で学んだことを忘れずに支援に活かしていきたいと思えます。
- ・あたりまえではない事は沢山ある。本人を抜きに決めないこと。普段の仕事の中で本人はどう感じてい

るのか、どう思っているのか等考えさせられました。これで良かったのか。常に自問自答していきながら本人を抜きに決めない主体と考えていきたいと思います。

- ・心身がどのような状態になってもあたり前の生活を送ることが今の社会でかなり大変なことなのだという事を認識した。特に自分の考えや思いを何らかの事情で伝えることが出来なくなった時、私の周囲に寄り添ってくれる誰かがいるだろうかと考え、今自分が行われなければならないことは何か考える機会となった。
- ・支援の中でおきていた可能性としては、誘導があったのではないかと振り返る。その人にとってよかれと思ったり、やはり正義と勘違いをする事があった。ターミナルばかりを支援するだけではなく、お元気な方が、よりお元気に過ごしていただけるように努めているが、それも、その利用者にとっては迷惑とされている方も少なからずいらっしゃるのも現実である。改めて、専門職としての立ち位置、利用者本人、そして家族が、本人主体での対話を重ねて行く事が大切であろうと感じる。

合同研修の成果をどのように活かしていこうと思われましたか？

- ・職員でできない事が利用者様相手にできないという事を再確認できました。職員間の関係性をもう1度ふりかえって仕事をしたいと思いました。
- ・職場へと持ち帰り、権利や当たり前ってなんだろうと皆で話し合いの機会を持ち、考えていきたいと思います。
- ・その人がいない所ではその人のことを決めたりしないという倫理感は今より当たり前にするべきことと感じます。実例を職場でも皆で議論のネタにして話し合いたいと思います。そしてその人がいない所でなぜ話し合わなければなかったのか考えると共に、代替策がきちんと明らかになればと考えました。
- ・“nothing about us without us” “open dialogue”。何度か研修で聞いたことではあったが、本当の意味を理解して実践していたか。決してそうではなかったと思う。その場には本人が参加していたかもしれないが、押し付ける、誘導する、談合する、になっていなかったらどうか。経験を重ね多くの結果を見てきたことで、その方の気持ち、意思を無視して「安全」という名の正義を行っていたかもしれないことに、再度反省させられました。単に反省だけではなく、少しずつでも実践しながら周りにも伝えていけたらと思います。
- ・事業所内の環境、関わり、支援など、もう1度、当たり前前に考えた時、どうなのか・・・ということを取り返し、どうしたら改善していけるのかということの本気に考えていきたいと思う。
- ・支援をする人のあたり前の日常を本人の思いを確認しながら把握する。そして、あたり前の日常の実現に向けて、支援していきます。支援していく時に常にこれでいいのかと自身に問い続けたり、多くの関係者や専門職に確認しながら支援していきます。
- ・利用者だけでなく職場の中においても互いの価値感を話し合う、認め合う雰囲気意識していきたい。
- ・“話し合う” ことの難しさを気づかせてもらいました。本人の物語を知ることが大切だと思いました。自分の中の“あたりまえを底上げ” できるよう努力していきたいと思いました。
- ・一人一人の人と話し合うということを見直し、つみかさねていきたい。
- ・日々の実践の中に折り込んでいき、よりよい関わりにつなげていこうと考えています。
- ・人として専門職としてなど考えつつ日々にあたりたい。今後大いに悩みつ、周囲にはたよれる人が多くいることの認識を改めて感じ、時にたより、時にいつのまにか救われ感謝していきたい。ありがたい出会いがたくさんありました。後、LIVE感を大切にしたいと…。
- ・自分の持ち場、役割を全うできるように精進したい。
- ・普段の実践に意識して取り入れていきたいです。実践しなければ身につかないと思うので。
- ・相談員としての役割を少しでもレベルアップして対応できるように、情報を活用していこうと思いま

す。

- ・権利が護られているか。(①, ②, ③) 常に念頭におき, 支援や話し合いに参加する。
- ・自分をかえりみたい。
- ・承認的コミュニケーションの充実と「話し合う」を実践したい。
- ・相手(利用者・家族様, 職場の仲間等)を理解する。意思決定が出来る, しやすい開かれた会話, 何度でも足を運び, 認めてもらえる姿勢を1つずつ実践していきたい。
- ・本人も含めて, 仲間(できるだけ多くの人たちもまじえて) 同士, 話し合うという環境が当たり前になるように実践していきたいと思います。
- ・ACTの存在を地域につなげていきたいと思います。
- ・利用者の意思確認を丁寧に行うことが重要と思いました。また「本人の生活をより良くする」支援の段階で, 本人の行動が効率的でないものになった際に, その行動も受容することを意識していきたいと思いました。
- ・実際に今関わっている方の中にも, 病気の為意向の確認が難しい人も多いですが, 本人はどんな生活をしてきたのか, どのようにこれから生活したいのかを聞き出せるように, 関わっていききたいと思いました。
- ・あきらめず, 日々勉強しつつ, 時には自分のことを疑い, 皆で話あっていければと思います。
- ・施設の他職員へ伝達し, 同じ施設で働くものとして“その人” 本人を大切に支えられるようにしていきたいと思った。
- ・専門職だけでなく, 地域の人々にも理解を促していく取り組みも必要だと感じました。
- ・対人援助は, 仕事で関わる人のみならず, あらゆる人間関係の上で実践できる思考展開なので, 日常の中で日々思い返しながらか, 活かしたいと思いました。
- ・結論を急がない等意識しながら日頃の支援に活かしていきたいと思います。
- ・話しあうこと。「本人と」「家族」と関わるだけでなく, スタッフ同士でも対話することが大事だとあらためて思った。職場でのコミュニケーションももっととれるよう努力したい。
- ・日常の業務で自分が意識して利用者に関わること。また, 様々な会議を開催する中でも, 本人の権利や意思決定支援, 開かれた対話について, 多職種にも伝えていくことができると困った人ではなく, 本人の支援につながっていくと思います。
- ・ご本人との関りだけでなくスタッフとの関りも承認的コミュニケーションでアプローチしていこうと思う。
- ・何がおきてどうなっているのか, どう感じているのかなどを本人におしえてもらえるような関係を築いていくことを大切にしたいです。本人抜きでの話し合いに慣れるのではなく, まず本人がいないことに疑問をもってそのことについて職場でも話せたらいいなと思いました。
- ・社福士としての視点や感覚を忘れないようにいつも参加させてもらっています。近くに社福士はほとんどいませんが, 自分が行っていることの反省もしながら, 原点に戻ることができています。今後も忘れずに業務に活かしたいと思います。
- ・まずは, 私が働いている施設のカギを無くそうと思った。(エレベーター) その中で, 相手の話をききながらもけんかにならないようにしたい。自分の今の関わりが全然足りない事もわかったので, 今回の研修を活かして1つ1つ問題点をなくして行けるようにしたい。職場でのフラットな関係作りも頑張ります。
- ・時間はかかるのがあたり前, 待つことも仕事と考えて本人に寄り添う支援をできるように, 事務所で職員同士話していこうと思う。
- ・テキストを読みかえし, 頭と心にひっかかったものを確認したい。

- ・権利や人権という基本的なところから始まり、生活全体をみていく大切さや面接の技法において大切なところなど具体的な取り組みや考え方が学べ、あらためて専門職としての知識を習得することの大切さや、なれやマヒすることのおそろしさを感じ、今後スタッフ同士での振りかえりを行い、“いづさ”“違和感”を感じとれる感性を互いに磨ける場面をもっていきたいと思いました。
- ・事務所内で今回の研修内容を共有し、話し合う時間を作りたい。
- ・本人を入れて話し合う。スタッフ同士の価値観の違いを認めつつ方針を統一していく。
- ・同僚や利用者と諦めずに対話を続けていきます。
- ・ご本人の置かれている状況を先読みして、結果を進められる状況が多いが、共有すべきもの、話し合い、チームとしての決断、意識したいと思います。
- ・違和感を持った事は、まず周りに発信していき、一緒に話し合い、考える機会を増やしていきたいと思います。その中でお互いを認め合うこと、いろいろな人がいるという事を理解しながら、よりよい人との関わりを広めていきたいと思います。
- ・面談技術を意識しながら仕事を行い、根拠を説明しながら新人に伝えていければと思います。
- ・自分だけの考えや価値観を押し付けず、多職種での検討や、本人の意思をまず聞くことを大事にしていきたい。また、職員同士の価値観についての話しあいも取り組んでいきたい。
- ・権利についての考え方、自己決定を支援する者として、各個人により、多様な考え方があり、それぞれに選択する自由、決定権があるということを忘れずに、本人が必要としていることや、やりたいことが実現できるよう支援者として常に考えられるようにしたいと思った。
- ・①本人の意思の尊重②生活の利益の確保③社会とのつながり。①～③の根拠を持って、支援していきたいと思います。
- ・どうしてもケアマネや家族の方を見て仕事をしてしまう場合があるので、「本人」のフィルターを外すことなく考えていけるようにしたいと感じた。家族、本人を切りはなしがちだが、本人の支援には切りはなしはいけないと思った。物事をふかんして見られるよう工夫したいと思った。
- ・支援を行っていく上で利用者ご本人の意思を尊重しながら行っていき、最善な生活を送っていただけるよう、社会とのつながりを大切にしながら支援していきたいと思います。この合宿で学んだ内容を活かし、連携を図りながらその利用者にとってより良い支援が行えるように職務に励んでいきたいと思います。
- ・振り返り、自問自答、これで良かったのか、他に方法はなかったか、専門職をまきこむ、共有をしていく。今以上に他者、本人、耳を傾ける。あせらないようにすることも活かしていきたい。
- ・声の小さい人に寄り添える何かを行なっていきたい。
- ・今回は改めて自分の支援した経過を客観的に捉えて感じ、考えの機会を与えて頂きました。
- ・その人の権利、意思決定として、人の基本的欲求は自分と当てはめて感じることで忘却を防ぎ、また、あたりまえの利用者権利と支援の基本を意識した支援展開を行なっていきたい。

その他、思ったこと感じたこと

- ・権利擁護というと、成年後見制度等の話がメインになっているので、日常生活の中での権利ということで勉強になりました。
- ・おいしいお酒においしいご飯に楽しい話し合いの場でした。
- ・自己決定の支援は介護支援専門員としては重要な役割です。今後も今回の研修を活かし、よりしっかり自己決定の支援をしていきたいと思います。
- ・スタッフとも利用者とも肯定的に関われることを意識したい。“本人抜きに本人の話をしない”ことを実行していきたいと思います。

- ・スキーマという考えにふれたことで、“その人を理解する”“チームでうごく際に気をつけること”についてとても参考になりました。
- ・意図しないところで、悪意なしに支配、被支配の関係が生じることがあるということが分かった。適切な関係性をつくるために、開かれた対話が環境を整えることが重要なテーマと感じた。
- ・様々な地域で多様な実践が行われていることを肌で感じることができました。
- ・最後は人。利他の心。
- ・何度聞いてもまだまだ理解せず、身についていないことがあると、いつも感じます。
- ・飲み物、食べ物を合い間にいただきながら楽しく受講できました。
- ・ありがとうございました。
- ・初めての参加でしたが、来年も参加したいと思っています。こんなに深い、掘り下げた研修に参加できて良かったです。2日間ありがとうございました。
- ・自分の価値観、スキーマを自覚したうえで、情報の提供、決める為の提案を具体的に言い、対話を通しての決定を今後実践できるように心がけたいと感じています。講師の皆様、ありがとうございました。
- ・精神疾患（パーソナリティ障害）の方の支援を行う際、距離をどれくらい保つことが必要か、悩みます。S-ACTの方が実際に利用者との良い距離をどのように測っているのか知りたいと思いました。
- ・職員間で話し合うことが気軽にできる環境は大切だと感じます。自分ひとりの考えで方針を考えていくのではなく、チームとして協力しながら対応をしていけるようにしたいと思いました。
- ・このような研修の内容を伝え続けて理解が深まるのは何年後になるかわかりませんが、あきらめず伝え続けていきたいです。
- ・初めての参加であったが、良い刺激を受け、参加できる機会があれば、また参加させていただきたいと思いました。
- ・ケーキときゅうりのからしづけがとってもおいしかったです。研修内容はもちろんですが準備してくれるスタッフの皆さん、いつもありがとうございます。
- ・今、関わっている精神疾患を抱え、地域とのコミュニケーションが上手くとれず、トラブルになっている方や、精神科医師から、良くなる可能性はゼロ、予後不良と言われている、てんかん性乖離性障害のある方への対応など、助言を頂きたいと感じながら研修を受けました。
- ・今回もとても勉強になった合同研修会でした。参加させていただきありがとうございました。
- ・また来年も参加させていただきたいです。
- ・DVDを最後まで見たかったので借りたいと思います。
- ・弁護士の先生と同じテーブルで話をきけたのがよかったです。
- ・飲み会ではなくあくまでも「研修」だということを理解していない参加者が増えてきたように思います。
- ・灯火研修、質が落ちていると感じます。以前もっと自由にムチャ振りされ、みなで話できたり、意見を発表できたり、できた時がなつかしいです。
- ・何度聞いても日々の自分の行動を振り返り反省する機会になっている。今後もこういった機会を持っていこうと思います。
- ・「社会福祉士」の仕事、ふだんの生活の中でつかみ切れないもの。たくさんありますが、自分の中にたぐりよせたい。と思い参加しました。「寄りそう」とか「傾聴」とか形式的な内容でなく、楽しい時間でした。
- ・1日目と2日目グループがちがうともっと様々な人と共有できるのかなと感じた。
- ・いつも自分自身を振り返る時間となっています。このような研修はなかなかないので、とても大切な

時間でした。本当にありがとうございました。

- ・ 灯火研修の映画に興味があるのでちゃんと観てみたい。
- ・ 社福士など、想いを持っている方々と話ができて、自分の考えや感じ方を再認識する機会になりました。具体的な情報交換ができたことも大きな収穫でした。ご準備いただいたスタッフのみなさん、ありがとうございました。
- ・ やはりまずは本人に聞くということの大切さ、改めて、大事にしていきたいと感じました。情けは人の為ならず、のように自分自身が相手を認めること、受け止めること、想いやりを持つことをしっかりやっていけたらと思います。今回もとても中身のある合宿でした。ありがとうございました。
- ・ 分かりやすい講義を行って頂いた講師の方を始め、たくさんの方々と、今回の研修で話すことができ、実りある研修となりました。ありがとうございました。
- ・ 自己評価の低い人間が支援者としてやって行けるのか、迷うことが多々ある。自分を理解し他者を受け入れる努力を継続し、自分の人生にも他者の人生にも責任が持てるだけの知識習得と知識を活用できるだけの冷静さを身につけたいと思う。
- ・ 常に省察的实践が必要だと感じた。
- ・ 環境、地域のせいにはできないと思った。日本は便利だが薄情なところがあるように、資料をみて感じた。西高東低もわかる気がするが、ハード面がそろってない国や地域でできていることが、日本にはできないとは思いたくない。
- ・ それぞれ、あたりまえ、価値感の違いがあると、習慣や環境でも違いがあること、認め合うことの大切さ、対話の重要性、答えのない不確かな状況に耐えることなど、あらためて必要性を感じた。
- ・ フーコー権力論、「往相」「運相」、ソクラテス「産婆術」永遠のテーマにしていく必要性を感じました。